大鹿スケッチ

― 第 41号 ―
2014年　03月
〈 発信者 〉
前志満　くみ
〈 提供 〉
旅舎 右馬允

今冬は、ヨガの勉強のために東京におのぼりさんを二月、三月と週末ごとにしていました。先日まだサクラの便りを前に出かけたところヤナギの芽吹き蛍光グリーンにはっとさせられました。ココロ湧き立つとはこのこと。おしりが持ち上がりました。前島データ―では桜とヤナギの芽吹きは同時期です。開花宣言もまぢかでしょう。

～2014 年度始動企画大鹿Ｐｌｕｓのご案内～

大鹿村をただ訪れるだけではもったいない！大鹿滞在にプラスαを求めているあなたに・・・
4 つのお楽しみプランをご用意してお待ちいたします。詳しくはＨＰでチェック！

■植物の名前を覚えたい
■貴重な動植物を見たい
■自然の生態系をじっくり観察したい
■山の中をゆっくり歩きたい

「自然観察トレッキング」

料金：ガイド料　15000 円

■森林浴がしたい
■山の中で瞑想したい
■山を五感全部で感じたい
■山の中でゆっくりしたい

「アウトドア YOGA」

料金：お一人　3500 円

■慌ただしい毎日
■ストレス、疲れがたまっている
■最近、体を動かしていない
■右馬允でゆっくり過ごしたい

「のびのびアクティブ YOGA」

料金：お一人　1500 円

■山の中をたくさん歩きたい
■アルプスの展望を楽しみたい
■大地の動きを感じてみたい
■季節のみどりを楽しみたい

「大鹿日帰り登山」

料金　ガイド料　15000 円

岩魚の共食いは止められない？！

いつもお世話になっている中村養魚所でいけすをながめているとご主人が「これもっていくか？」と一匹の大きな岩魚を引き上げてくれました。「共食いを始めるとずっと食い続けちまうもんで、ださんとだめな」どうやらこの大きな岩魚が共食いを始めたのでもってってくれということなのだ。もらって帰ってそれをひらいてみると岩魚の稚魚がでてきました。

さて、岩魚は丸のみしているようですがどこで味覚を感じているのでしょうか？て岩魚が共食いを止めるようですが彼岸を過ぎれば種を蒔き、来る季節を街なく、のど越しなのまだろうか…？と疑問に思うのでした。蕎麦は喉で味わうとよくいわれますがそんなノリの岩魚の共食い。止められない、止まらない♪今度ちゃんとした理由を岩魚に聞いてみたいものです。

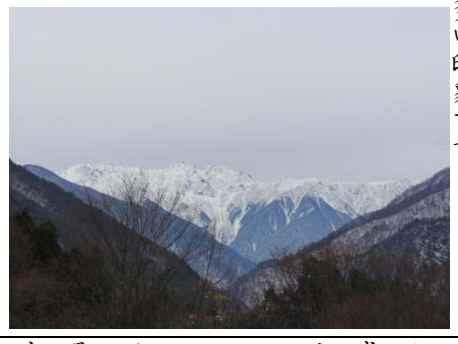
大鹿 HeatBeat

～大鹿の人々～　第 39 回

紙谷　正　さん　(87)

季季節ごとの風景と共に大鹿人の生活をご紹介します。淡々としたパワーに触れて、学び、それぞれのフィールドに持ち帰って生かして熱く響く「鼓動」をお届けします。

主峰赤石岳は今年は雪が多い印象です。



彼岸を過ぎると、ジャガイモの種を植えます。村内でも標高の高い地域によってその意見に対してお金にならないのにどうして生活していけるんだ！信じられない。というような意見も出ました。お金の価値を重んじる方、得られるお年寄りの知恵や自然を読み取る感覚の習得に重き置く方は、お金にならないけど人との繋がりが見える場に住みたいという想いで移住を決めた方もいました。それを引き出すトピックスとして「どうしてこのムラを選んだのか」「どうしてこの仕事を選んだのか」という質問を通してそれぞれが大切にしている考え方、生き方が見えてきたような気がします。あるくしてもどうしようもない時がある（不作）世間といっしょや」ということも人の力ではどうすることもできない力、絶対的存在のことを言っているのでしょうか。村内はまだ冬の気配も残しつつといった感じですが街へ向かうダム沿いの道小渋線では黄色の花木達が春の喜びを伝えてくれています。

三月二四日長野県社会福祉協議会が主催する第六回「まめったいサミット」が開催されました。「まめ」とは元気という意味で、地域の元気のことをよくいっているドラマだなと感じていました。ここで言う「一元論」とは、あらゆる存在の原理は単一であるというひとつの考え方です。それが表れていたのがふくさんが結婚するときに言っていた「子供は，目に見えないものの力で育つ」というような事をいっていまひたが自分や周りの人間が物理的に育てるのではなく、絶対的存在の世界が育てるのだと彼女はいっていたのだと思います。そしてめいこさんが疎開時に農業生活をしていましたがその時に、「農業はやれることを尽くしてもどうしようもない時がある方が結婚するときに言っていた

朝の連続ドラマ「ごちそうさん」が終わろうとしています。毎日欠かさずに観ていたというわけではありませんが、印象として「一元論」のことをよくいっているドラマだなと感じていました。ここで言う「一元論」とは、あらゆる存在の原理は単一であるというひとつの考え方です。それが表れていたのがふくさんが結婚するときに言っていた

風が季節の移り変わりを知らせてくれています。最近は土の香りがファーストインパクトで雪の香りは遠くになりました。庭にはジョウビタキやアトリといった冬鳥たちがみられます。北への旅立ちの日を決めているのでしょうか。村内はまだ冬の

マンサク、ダンコウバイ、そして通称、春の山のシャンデリア、キブシ。だんだんと色彩が蘇っていきます。

受け取り準備をしています。